

市長	副市長	部長	所長	参事	次長	副参事・係長	記録

【所属名：福祉事務所】  
【会議名：第3回地域福祉計画策定委員会】

開示  
一部開示 (理由: 条例第 条第 号 該当)  
不開示  
時限不開示 (開示: 年 月)

## 会 議 録

作成日 平成29年3月7日

日	平成29年3月2日	時間	13:30~14:50	場所	市民図書館3階会議室
件名	(1) 地域福祉計画(案)について				
出席者	【出席者】8人 横澤陽子、小池洋一、齋藤明子、清岡聡美、中村正之、金子栄一、西山 忍、石田 薫 【欠席者】2人 八木和春、倉又孝好 【事務局】 市民部 岩崎部長 福祉事務所 水嶋所長、吉岡次長、陶山係長、塚田係長、山田係長 社会福祉協議会 中村事務局長				
	傍聴者定員	— 人	傍聴者数	0人	

### 会議要旨

#### 1 開会 (13:30)

事務局 会議次第「3 議題」まで福祉事務所長が進行をつとめる旨を述べる。  
委員過半数以上の出席により、委員会が成立したことを報告

#### 2 委員長あいさつ

委員長 この地域福祉計画は高齢者や子供、障害者と地域の全ての人が支えあって助け合っていく中で安心して生活ができるような地域共生社会を目指しているところです。  
今までの与えられた福祉ではなく、これからは地域全体で創る福祉を目指していくということを念頭において審議をしていただきたい。

#### 3 議題

##### (1) 地域福祉計画(案)について

【事務局】 資料1から資料3に基づき、  
①パブリックコメントで寄せられた意見などについて  
②市議会市民厚生常任委員会での意見と修正点について  
③新旧対照表について  
を説明

《主な質疑・意見》

- 【委員】 パブリックコメントを実施していることを知らなかった。どのように行われたのか。福祉に関係する施設にも設置されたのか。
- 【事務局】 パブリックコメントについては、おしらせばんで周知し、1月10日から2月8日の間に行われた。設置したのは、市役所、両事務所、図書館、地区公民館などである。おいていた計画書は全て持ち帰りされていたようだが、結果的にご意見がなかった。
- 【委員】 生活困窮者自立支援制度に目標数値を設定したが、目標値の根拠は何か
- 【事務局】 この数値については、生活困窮者として相談があった人のうち、約半数についてその人に寄り添った支援プランを作成するという厚生労働省の目安値を目標値に設定したものである。
- 【委員】 こういったものを数値化することに違和感を感じる。ボランティアの会員数にしてもそうであるが、今回の火災にかかるボランティアでも上手いかず、ボランティアをお断りしたという話も聞いている。そういった見えにくい部分もあるので数値にこだわるのはどうかと思う。
- 【事務局】 確かに数値化したものを達成できればそれでいいのかという問題もあるが、国や県、市の計画の中ではやはり成果を求められることが常となっている。議会での意見では数値化し成果をさらに課内で徹底検証してほしいとの意見をいただいた。
- 【委員】 生活困窮者自立支援制度の目標数値50%というのは目標が高くないか。
- 【事務局】 確かに難しいと思うが、前段申し上げたとおり国の目安値を目標とした。
- 【委員】 数値化ということで、目に見える評価も大事だと思うが、各目標値の根拠が見えづらいところがある。数字もそうであるが、中身をしっかりとってもらいたい。また、避難行動要支援者制度の同意率であるが、目標値の60%の根拠は何か。
- 【委員】 この数字が100%になったら、地域の支える側が大変になると思う。そういった意味から各地区で自主防災組織を整備して行った方がよいのではないか。
- 【事務局】 この避難行動要支援者制度同意率の数値目標についてはこれでよいのかどうかも含めて後ほど④で修正の提案をさせていただくので検討をお願いしたい。
- 【委員】 確認だが、ボランティア人数の目標値はわかったが、このボランティア協議会がどこにあって、どんな活動をしているのか。ボランティアにもたくさんの種類がある。本当に困っている方に対して対策を立てるのが福祉だと思う。ボランティアの会員数の増加を目標値にすることに意味があるのか疑問である。
- 【事務局】 社協でボランティア連絡協議会の事務局を担っているが、協議会に加入している団体、会員数を掲載した。恐らくここに加入していない小さいボランティア団体の方もたくさんいると思っているが、実態を把握しきれていないのが現状である。その中で指標として出せるものがこのデータになる。
- 【委員】 ボランティア団体に属しているが、色々なボランティアを行っている。ただ、この協議会には加盟していない。
- 【委員】 ボランティア加盟団体25団体あるが、そのうち最大の人数を誇っているのが老人クラブ連合会である。老人クラブは地域において自らの健康を維持して地域のために活動している。地域全体に広がってほしいが、会員が年々減少している。目標値は増加を見込んでいるので老人クラブへの加入を呼びかけして会員を減らさないようにしたい。

- 【委員】 ボランティアの本当の仕事が理解されていないようだ。ボランティア団体の組織体制を充実し、広くPRして欲しい。
- 【委員】 ボランティアだよりが発行されているが、そこで中身について市民に周知できればよいのではないか。
- 【委員】 ボランティアを依頼する方もボランティアなので無償奉仕ということで、都合よく依頼してくることもあるので、ボランティアの本来の意義や活動内容等を周知する必要がある。
- 【事務局】 ボランティア活動の周知については、重要であると認識しているが、たよりなどで紹介できるのは協議会加盟団体だけである。
- 【委員】 ボランティアの目標値の根拠は。
- 【事務局】 目標値が低いと言われるかもしれないが、ボランティア全体が減少している現状にあつて何とかそれを減らさないような取組ができればとこのような目標値を設定した。
- 【委員】 老人クラブが大多数という話が出たがまさにそれである。高齢化でやめていく人が多い。若い人に加入してもらう方策を考えるべきだ。
- 【委員】 ここで数値化しボランティアの会員を減らさなければ、ボランティアを推進できるのか甚だ疑問である。
- 【事務局】 この部分を数値化するにあたって検討したときに、本来であればどういったボランティアをしているのか、ボランティアを提供した量や回数などで数値化すればよかったのだが、その把握が困難なことからこういった目標値になった。
- 【委員】 ボランティアの指標については、ボランティア連絡協議会加盟の団体数などと注釈をつけた方がよい。
- 【事務局】 注釈を入れる形に修正したい。
- 【委員長】 事務局から提案のあったとおり、目標値を入れるような形で計画書を修正してよいか。

委員一同了解した。

#### ④計画書の修正について

##### 《主な質疑・意見》

- 【委員】 癒しについては、言葉としてはよい言葉であるが、意味がよく理解できなかったことから、今回修正してもらい、具体的でわかりやすくなった。
- 【委員】 癒しの捉え方には個人差があると思う。修正していただきわかりやすくなった。
- 【委員】 障害児をもつ親の気持ちを考えると、この思いやりの気持ちを皆さんに持ってほしいと思っている。そういった意味からも修正していただいてよかった。
- 【委員】 言葉が具体的でわかりやすくなった。よかった。
- 【委員長】 その他の修正する部分などはないか。
- 【委員】 私は地区の区長を務めているが、市から送付される避難行動要支援者名簿は慎重に取り扱っているが、本当に要支援者の支援を考えた場合、地区の役員や支援者に情報を伝えてよいのか。
- 【事務局】 同意をいただいている方の名簿を送付しているので、伝えてもよい。いざ、災害が起こった場合、要支援者をすぐに支援できるのが地域の方である。平時からその方の情

報を地区の中で共有し、その方の支援方法を地区内で考えてほしいことから、名簿の配布を行っている。

【委員】 自主防災組織だが、高齢化により維持が難しくなっていると聞いている。

【委員】 大火があった地域も高齢化率が50%くらいである。これについては、別途検討が必要であると考えます。

【委員】 今回、目標値を検証していくシステムとして、第4章を追加したのはよいことだと思うが、今後この計画推進していくためにはこれをどう周知していくのかだと思う。その辺は何か考えているか。

【事務局】 今後、年度末に計画ができた段階でこの計画全部を説明するとなると大変なので要約版を作成し、色々な会議の中で周知を図っていきたいと考えている。

【委員長】 他に全体を通して修正箇所などないか。

特になし

## (2) その他 今後の日程について説明

【委員長】 今後、市民厚生常任委員会に本計画の修正点を説明するわけだが、そこで修正があった場合の対応、修正は事務局に一任してよいか。

委員一同 了解した。

【委員長】 以上で地域福祉計画（案）の審議を終了する。

## 4 閉会

(14時50分終了)